



令和7年度

亀山市立神辺小学校

研究デザイン

教育大綱 基本方針ーⅠ

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

『自ら学び、心豊かにたくましく生きるやなぎっ子の育成』

めざす子ども像

〈自ら学ぶ子ども〉

- ・学習に意欲的に取り組み、進んで問題を解決しようとする子
- ・相手の話に耳を傾け、深く考え、自らの思いや考えを表現できる子

〈心の豊かな子ども〉

- ・なかまを大切に、共に高まろうとする子
- ・郷土の良さをみつめ、美しいものや自然に感動する子

〈心身ともに健康な子ども〉

- ・命の重さを知り、自他を尊重する子
- ・働くことに誇りや喜びをもち進んで役立とうとする子

めざす教職員像

- ・わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに努める教職員

- ・子どもの声や思い・願いを大切にする教職員

- ・家庭や地域との対話を大切にして、信頼関係づくりに努める教職員

- ・研修に励み、自らの力量向上に努める教職員

亀山市立神辺小学校研究主題

『自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり』
～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～

研究領域：生活科、総合的な学習の時間を中心とした全領域

1 研究主題設定の理由

神辺小学校は、市街地から外れた静かな環境の中にある。子どもたちは8つの地区から通学しており、在籍児童数は116名である。地域住民の方々の学校教育への協力意識も高く、登下校の見守りボランティアや学習ボランティアにも多数参加していただいている。地域の子どもを地域で育てる気運が高く、子どもが参加する地域行事も盛んに行われている。

子どもたちは落ち着いた学校生活を送っており、素直で人懐っこい子どもが多い。学習面においては、2極化傾向が見られるものの、粘り強く前向きに取り組むことができている。生活面では、当番や委員会の仕事に責任をもって取り組む姿や縦割り班活動で学年を越えてかかわる姿が見られる。一方で、単学級であるために人間関係やクラスの仲間に対する見方が固定化する傾向がある。そのため、特定の児童に対して言い方がきつくなってしまう児童や自分と仲のいい友達以外とは積極的にかかわろうとしない児童もいる。

このような実態から、一昨年度から校内研修のテーマを『自他を大切に認め合い、高め合える集団づくり ～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～』として、学年別にテーマを設定し、人権学習に取り組んでいる。その成果として、かかわりへの抵抗が少なくなってきたことや相手を気遣ったり認め合ったりする声かけが増えてきたことが挙げられる。さらに、校内のトイレへの点字の設置や全校での災害支援募金活動への取り組みなど、人権学習を通して様々なアイデアを出す子どもたちの姿から行動に移せる実践力が育まれつつあると考えられる。しかし、自分の思いをみんなの前で出すことのできない児童や、他者の考えを自分の考えにいかしてよりよい考えや生き方につなげようとする姿などについては課題が残る。

以上のような実態から、今年度も昨年度の研究主題に引き続き取り組み、これまでの学習に積み上げをねらうことで、自己啓発し、個々に高め合える集団づくりや実践力を育てていく。さらに、出会い学習や実感もてる活動を充実させていくことで、他者の考え方や生き方に学び、行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげさせていく。このような実践をふまえて今年度は「神辺小版人権学習プログラムの確立」を目指していく。以上のことから、研究主題及び領域を上記の通り設定し、研究を推進していく。

2 研究主題について

「自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり」を進める上で2つの学習活動を重視していく。一つは、「人権意識を育む人間関係づくり」である。教師が児童間の心的交流活動を意図的に仕組み、自己開示していくことで、個々の児童の自己肯定感と帰属意識の向上が期待できる。もう一つは、「人権意識を育む学習づくり」である。亀山中学校区人権カリキュラムに示されている人権課題について各学年が各教科と関連性を持たせながらテーマ学習を進めることで、人権課題の解決に向けた知識と態度を養うことをねらいとする。これら学習活動の中で醸成された意識や自分への気づきは常に生活とリンクさせ、反差別・反いじめの行動につながるよう促していく。そのことが上記の研究主題に迫るものと考えられる。

3 研究構想図

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく生きるやなぎっ子の育成

学校人権教育目標

自他を大切にしてい互いを認め合い、あらゆる差別を許さない心と実践力を育てる

亀山中学校区教育目標

自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成

本校研究主題

自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり
～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～

人権意識を育む人間関係づくり

【全学年共通】

自己肯定感を高める

- ・自分のことを考える
- ・自分の気持ちを表現する
- ・自分や家族のことを伝え合う
- ・一人一人が活躍する
- ・互いに認め合う

友だちとのかかわりをつくる

- ・友だちのよさを見つけ伝え合う
- ・いじめ等身近な問題を解決する意欲を高め、具体的に行動する
- ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力を養う
- ・児童会を中心として、自治的・主体的に活動する

人権意識を育む学習づくり

【学年別テーマ】

課題解決への知識と態度

- ・自分の気持ちを伝え、まわりの人の気持ちを考える。自分にできることをする。【1年】
- ・身近な人々、社会とのかかわりで自分を捉え、自分の生活について考え、表現することができる。【2年】
- ・多文化共生学習を通して、文化的な違いを知る。(国の言葉や文化) 【3年】
- ・障がい者理解学習を通して、みんなが安心できる社会について考える。【4年】
- ・個別の人権問題を通して差別の不合理性について考える。【5年】
- ・部落問題について正しく理解し、今後の自分の生き方を考える。【6年】

4 研究主題に迫るための具体的な方法

人権意識を育む人間関係づくり

①やなぎっ子タイムの実施

- ・子どもたちのかかりの力を育むために、毎週木曜日の朝学習の時間に取り組む。
- ・年間を通して行うことで学級での交流から異学年への交流へと広がっていく。

②ペア・グループによる活動

- ・授業での目的に応じて、ペアやグループ学習を積極的に取り入れていく。やなぎっ子タイムで学んだかかわり方のスキルをもとに、毎日の授業の中でかかわる力を育ていく。

③自治的活動の充実

- ・児童会が中心となり自治的活動を行うことにより、自己肯定感や互いに認め合い、目標に向かって高め合う機会を充実させていく。また、異学年交流を通じた豊かな人間関係を築いていく。

④自分を語る機会

- ・子どもたちが人権学習を通して自分の内面を語るができるよう、また、友達の思いに気づいていくことができるように、自分を語る機会を充実させる。

⑤人権集会

- ・一年間のまとめとして人権集会を行う。自分宣言の実施を通して、各学年での人権学習での学びをもとにより良い自分について考え、仲間を理解し、認めようとする態度を育てる。

人権意識を育む学習づくり

①学年別テーマに沿った年間計画の作成

- ・各学年別の人権テーマを設定することで、6年間を見通して段階的・系統的な人権学習を行う。

②出会い学習の充実

- ・他者の生き方から学び、考えることを通して、多様な価値観や考え方に触れ、より良い自分の生き方に迫っていけるように年間を通してゲストティーチャーとの出会いを1回以上設ける。

③実感もてる活動

- ・人権学習のまとめとして、子どもたちが達成感や満足感、自己有用感をえることができるように、学習したことを発揮できる場や機会を工夫する。